店舗建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

富　樫　館　跡　Ⅵ

2021

石川県野々市市教育委員会

例　　言

1 本書は、富樫館跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2 遺跡の所在地は、石川県野々市市扇が丘地内である。
3 調査原因は、店舗建設である。
4 調査は原因者である協和建設株式会社の委託を受けて野々市市教育委員会が実施した。
5 調査に係る費用は協和建設株式会社が負担した。
6 現地調査の期間・面積・担当者は以下のとおりである。
調査期間：令和2年10月20日～10月23日　調査面積：153㎡
調査担当者：西村慈子、腰地孝大（野々市市教育委員会文化課）
7 出土遺物の整理及び報告書の刊行は令和2年度に実施し、腰地が担当した。
8 本書についての凡例は以下のとおりである。
⑴ 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠している。
⑵ 水平基準は海抜高であり、T.P.（東京湾平均海面標高）による。
⑶ 出土遺物番号は、本文・観察表・挿図・写真に対応する。
⑷ 挿図の縮尺は図に示すとおりである。
⑸ 土層図・遺物観察表の色彩注記は、『新版標準土色帖』に拠った。
⑹ 遺構名称の略号は以下のとおりである。
溝：SD　土坑（竪穴状遺構）：SK
9 調査に関する記録と出土遺物は、野々市市教育委員会が一括して保管・管理している。

第1章 調査の経緯と経過

当該地は富樫館跡の包蔵地内であり、店舗建設に伴い令和2年8月21日付教文202号で土木工事等のための発掘届を県に進達し、県より発掘調査を行う旨の通知がなされた。直ちに事業者と契約を行い、10月20日に現地調査を開始した。現地調査は重機により表土を掘削したのち、人力による遺構検出及び遺構掘削作業を行った。遺構について、図化、写真撮影及び測量を行い10月23日に終了した。整理作業については調査終了後速やかに図面及び遺物の整理を開始し、令和3年3月に報告書を刊行した。

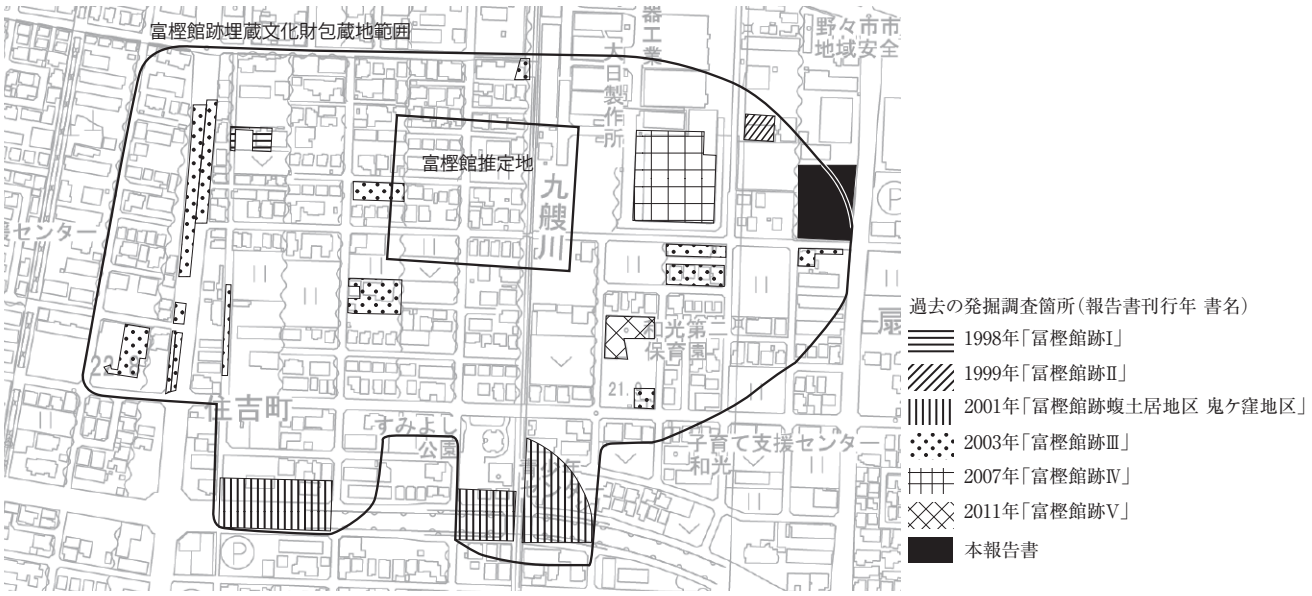
第1図　野々市市位置図

第2章 遺跡の位置と環境

野々市市は金沢市と白山市に境界を接する、面積13㎢ほどの県内で最も狭い市町である。県南部を西流する手取川によって形成された手取川扇状地の扇央部から扇端部にかけて位置しており、比較的平坦な地勢ながら南から北へ緩やかに傾斜しており、市内の最も高い地点で標高49.6m、低い地点で標高8.4mを測る。

第3章 歴史的環境

富樫館跡は縄文から近世にかけての遺跡であるが、主たる時期は中世であり、建武2（1335）年に加賀国守護に任じられた富樫氏が構え守護所として用いられた館（富樫館）を中心とする遺跡である。詳細な過去の調査成果は割愛するが、1994年の調査では館を取り囲む堀の西側部分を検出しており、一辺約100m四方の館が推定されている（野々市町2003『富樫館跡Ⅲ』）。館推定地の西側は溝で区画された宅地として利用されており、鍛冶関連の遺物などが多数出土していることから市が設けられていたと考えられている。また東側では一般農民層の居住域のほか墓域や寺院が存在したと推定されている。



第 2 図　富樫館跡埋蔵文化財包蔵地範囲（縮尺5000分の1）

第 4 章 遺構と遺物

調査対象となった範囲は敷地の南北方向に設けられた擁壁及び東西方向に設けられた側溝部分並びに建物基礎の柱部分である。事前の試掘により調査地東側では遺構遺物が確認できず遺跡の縁辺地に当たると想定されていた。
検出した遺構は、土坑（竪穴状遺構を含む）6 基、溝 3 条、小穴 39 基である。このうち主たる遺構である溝及び土坑はいずれも調査地西側の南北トレンチで検出した。狭隘な調査区の中で全形が不明であるものも多いが、おおよその形状が把握できたものについて以下に記載する。

①土坑（竪穴状遺構）

SK1 は南北 86cm、東西 120cm、深さ約 28cm の不整形な土坑である。検出当初は SK2 に切られている大型の土坑と判断していたが、掘削の結果 SK2 を切っていると判断した。いずれも覆土が類似しており大きな時期差はないと考えている。底部は不整形に窪む。覆土は黒色シルト質粘質土でブロック土を若干含む。

SK2 は南北 172cm、東西 205cm、深さ約 50cm の不整形な土坑である。SK1 に切られている。検出した土坑の中では最も深いものである。壁の立ち上がりは急であり底部は緩やかに窪む。覆土は黒色シルト質粘質土で炭化物を含み、ブロック土は少ない。遺物は出土しておらず時期は不明である。

SK3 は調査区外に延びており全形は不明であるが、検出できた範囲で南北 355cm、東西 164cm、深さ 15cm の南北に長い不整形な竪穴状遺構である。検出した土坑の中では最も規模の大きいものであるが、北側の立ち上がりは非常に緩やかであり、底部は平坦になる。覆土は黒色シルト質粘質土で小礫及び炭化物を多く含み、ブロック土は少ない。遺物は 1. 珠洲焼擂鉢の口縁部 1 点と、2. 青磁椀片 1 点である。1. は口縁部が外傾し卸目はみられないもので吉岡編年Ⅳ 2 期頃と考えられる。2. は幅広の蓮弁文をもつ青磁椀の小片で、14 世紀中頃と考えられる。

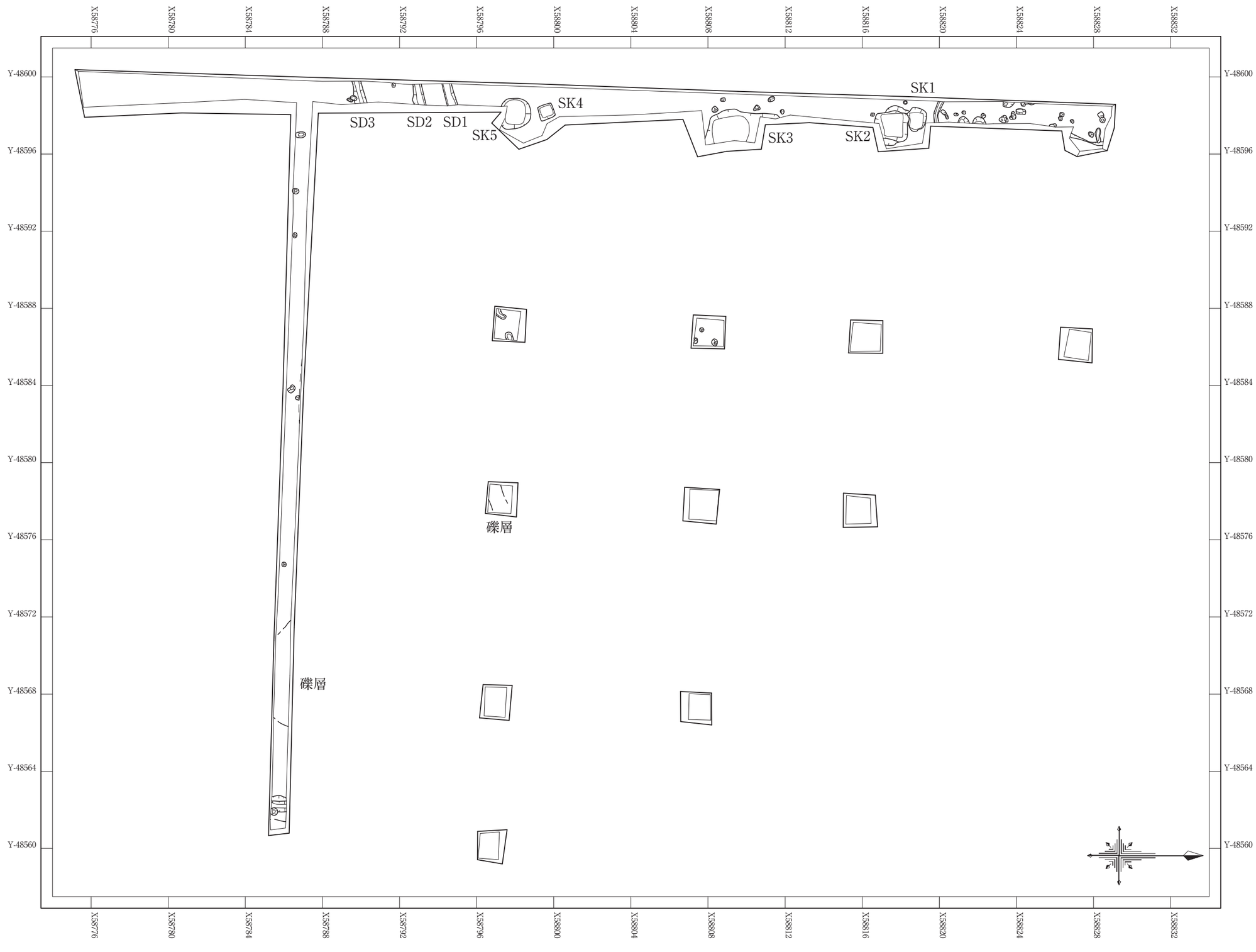
SK4 は南北 84cm、東西 85cm、深さ約 5cm の方形の土坑である。掘込は浅いが、検出プランが明確であったため遺構と判断した。底部は平坦で覆土は単層の黒色シルト質粘質土でブロック土は少ない。遺物は出土していない。

SK5 は南北 154cm、東西 158cm、深さ約 12cm の隅丸方形の土坑である。SK4 と南北に並び、いずれも掘込が浅いがプランは明確であり、遺構と判断した。いずれも覆土が類似しており大きな時期差はないと考えている。底部は平坦で覆土は単層の黒色シルト質粘質土でブロック土は少ない。遺物は出土していない。

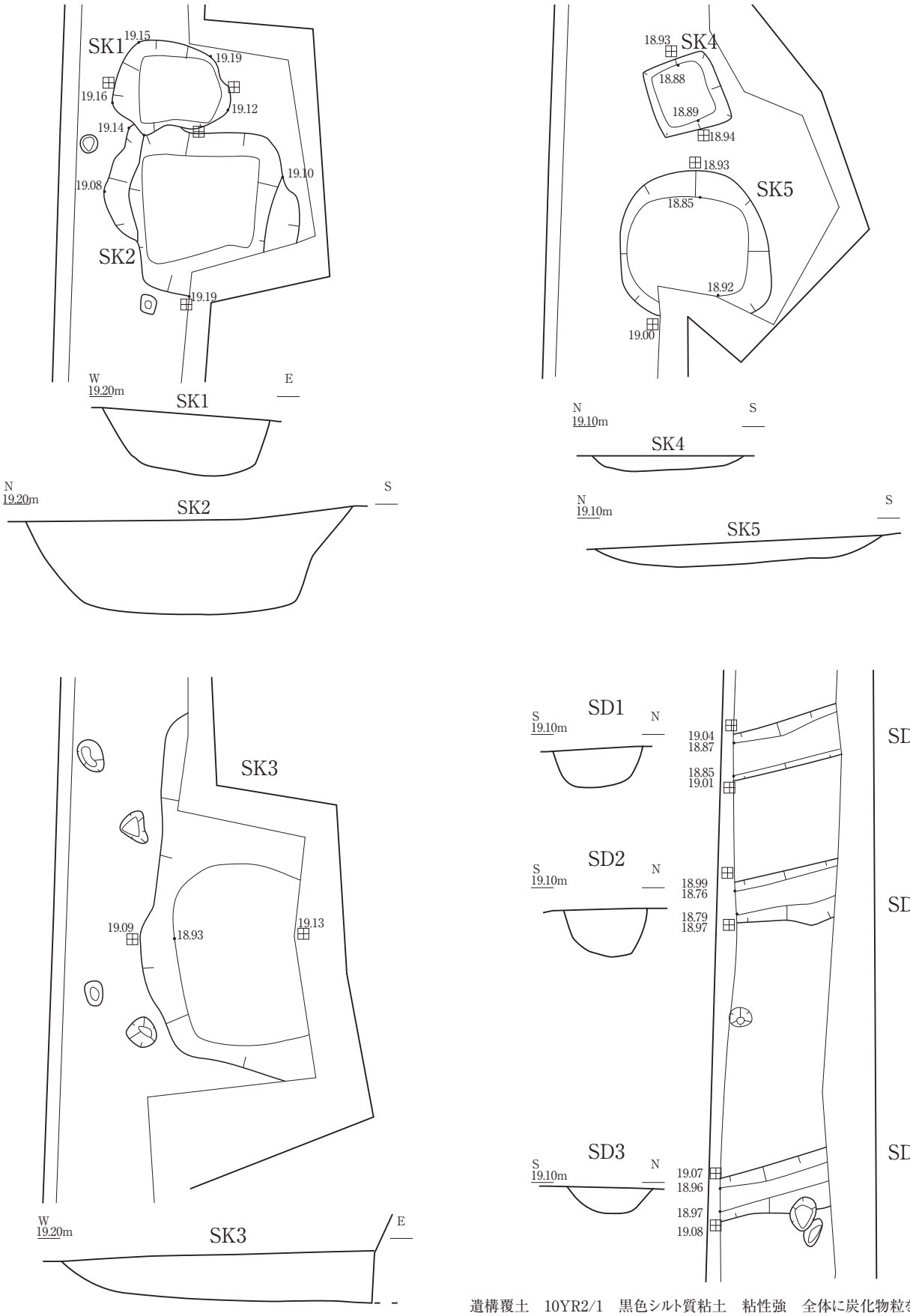
②溝・小穴

SD1･2･3 はいずれも幅 50cm 程度で、北から約 70° 東に振れ平行する。SD3 は深さ約 10cm 程度と掘込が浅いのに対し、SD1・2 は深さ約 20 から 30cm と深く立ち上がりも急である。覆土に水流の痕跡は認められず、人為的な埋没の痕跡も確認できなかった。

小穴はいずれも掘込が浅く、建物等の柱穴と想定して並ぶものも確認できなかった。



第 3 図　調査区全体図(縮尺1/200)



遺構覆土　10YR2/1　黒色シルト質粘土　粘性強　全体に炭化物粒を含む
地山　　2.5Y5/4　砂質シルト　しまり良

0 (1:30) 1m
0 (1:60) 2m

第 4 図　個別遺構平面図･断面図（縮尺 平面図：1/60、断面図：1/30）

1

0 S=1/3 10cm

第 5 図　遺物実測図(縮尺1/3)

第 5 章 総括

本調査地は富樫館跡の中で寺院推定地及び墓域が想定される範囲である。平成 17 年度の調査区（野々市町 2007）では人骨や炭化物などが伴う墓壙と考えられる土坑が検出されているが、今回検出された土坑から人骨等は出土しておらず断定できない。また溝については過去の館西側での調査において宅地の区画溝や道路側溝として機能していたと推測されるものなどがみつかっており（野々市町 2003)、今回みつかったものもこの類のものと考えられる。

今回みつかった遺構の時期は SK3 出土遺物から館が構えられた 14 世紀中頃以降のものと考えられる。今回の調査では富樫館周辺の土地利用の一端が明らかになったと考えており、今後さらなる調査の積み重ねが望まれる。

（参考文献）

上田 秀夫　1982　「14~16 世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』 2
野々市町教育委員会　1998　『富樫館跡Ⅰ』集合住宅建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
野々市町教育委員会　1999　『富樫館跡Ⅱ』民間開発に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
野々市町教育委員会　2001　『富樫館跡蝮土居地区 富樫館跡鬼ケ窪地区』扇が丘・住吉土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
野々市町教育委員会　2003　『富樫館跡Ⅲ』
野々市町教育委員会　2007　『富樫館跡Ⅳ』株式会社大日製作所工場施設増築用地に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
野々市町教育委員会　2011　『富樫館跡Ⅴ』和光保育園建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
吉岡 康暢　1994　『中世須恵器の研究』

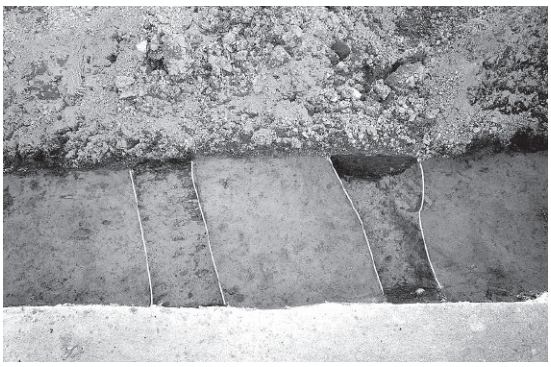
調査区全景（北西から）

調査区全景（南西から）

SK2断面（西から）

SK3断面（南西から）

SK4・5断面（東から）



SD1・2完掘（西から）

1

2

第 5 図　遺物写真（縮尺約1/2）

番号	遺構	種別	口径	器高	色調	胎土	残存率	備考
1	SK 3	珠洲焼 擂鉢	37.6㎝	—	灰色	砂礫、海綿骨針	1/18	
2	SK 3	青磁 椀	—	—	明オリーブ灰色	砂礫、黒色粒	小片	外面に蓮弁文

ふりがな	とがしかんせき
書名	富樫館跡Ⅵ
編著者名	腰地　孝大
編集機関	野々市市教育委員会
所在地	〒921－8510　石川県野々市市三納一丁目 1 番地　　Tel：076－227－6122
発行機関	野々市市教育委員会
発行年月日	西暦　2021 年 3 月 24 日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
富樫館跡（とがしかんせき）	石川県（いしかわけん）野々市市（ののいちし）扇が丘（おうぎがおか）	172120	1203000	36°52′87″	136°62′42″	2020年10月20日～10月23日	153	記録保存調査

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
散布地 城館	縄文・古代 中世・近世	溝3条　土坑6基	中世陶磁器	

要　約	調査地西側で土坑及び併走する溝等を検出した。

2021 年 3 月 24 日　発行

富樫館跡Ⅵ

著作権所有　石川県野々市市三納一丁目 1 番地

発　行　者　野々市市教育委員会

印　刷　者　石川県野々市市矢作三丁目 18
高桑美術印刷株式会社